

演劇空間スペースベン

演劇ユニット遊鳥座、盛岡公演『FLOOR』

〈文／演劇ユニット・遊鳥座 主宰 五十嵐 隆〉



▲遊鳥座
「階間のヒトビト」
▶劇くらぶ
「しんぶんかみ」



か

つて八戸は、確かに「演劇の盛んな街」であった。薄れかけた記憶を思い返してみるだけでも、千一年王国、どらまぐるーぶ「川」、八戸小劇場、ワクワク企画、ブレイ・カンパニー・オールスターズ、アララギ派、二人会、IGANOKIRIGOMI、未成年劇場、イージーシアター、我楽多屋、etc...。上演される作品の質と好みについての是非は兎も角も、それぞれの志を持った小劇場劇団が個性的な活動を展開していた。東北六県を初め日本各地

の劇団が集結した演劇祭である「東北演劇祭TATA86」の第一回開催地が八戸であったという事実が、かつてこの街に滾っていた演劇熱を象徴的に物語る。それらの八戸の劇団はしかし、千一年王国がモレキュラー・シアターへと昇華・変態を遂げた唯一点を除き、悉く消えて去っていった。事実上、八戸において小劇場演劇に触れる機会は現在、「スペースBEN」での年に数回程度のFANSや小劇場劇団の公演であり、八戸は、少なくとも小劇場演劇に限って言えば壊滅状態に近い。演劇を志す人達(特に若い人達)には少しばかり可哀想な環境だ。上演される舞台の絶対数が極めて少なく、さらには上演される演劇の質的バリエーションが極端に狭いのだ。だからこそ「外に出る必要性」を痛切に感じていたのだ。

この3年間、主にスペースBENを拠点に幾つかの公演を打ってきた。が、おそらくは若いメンバーのほとんどは自分達のやっている表現世界がどんな座標軸上に位置づけられるのか、おそらくは考えたことすら無かったろう。だからこそ観客席に内輪の全くいない状況の中で自分達の表現を晒し、外部からの批評に作品を晒す必要があった。

6月11日(土)、12日(日)、盛岡市、岩手アート・サポート・センター「風のスタジオ」。私達は盛岡市で劇評サイト「劇くらぶ」、劇評誌「みるべ」を主宰する川村駿明氏プロデュースによる3劇団によるオムニバス企画公演「FLOOR」に参加した。60年代後半のアングラ芝居を彷彿させる、川村駿明プロデュースによる「しんぶんかみ」(作・川村駿明、演出・もり)。同じく盛岡市を活動拠点とする劇団beによる「Twenty-one and Half」(作、演出・be)は、若者の日常の一コマを切り取った爽やかな青春ドラマの一人芝居。そして私達、八戸の演劇ユニット遊鳥座(ワンダーバードシアター)による「階間のヒトビト」(作、演出・五十嵐隆。現代口語演劇の衣を纏いつつ実は怪談仕立てのファンタジーであるこの舞台は、映像と演劇のコラボレーション作品「FLOOR」の「床」、「階」をテーマとした、全く作風の異なる3作品。活動する劇団の数が数え切れず、さらには作品を鑑賞し、

あるいは批評する眼の肥えた観客達の鋭い眼差し。盛岡が「日本でも演劇の盛んな地方都市」の一つであることは多くの人々が指摘するところだが、彼らの目に今回の企画公演、そして私達の作品はどのように映ったのか。それは上演当事者である私がここで述べるよりも、演劇サイト「激突くらぶ」に寄せられた声を見ていただく方が、より観客の生の声や批評を伝えられると思われる。機会があったらアクセスしていただきたい(「劇くらぶ」URLアドレスhttp://www.h-dion.ne.jp/~gekikotut/)。

創り手の端っこにいる私達が会場を一杯にする観客達と同じように求めているモノは、厳しくも刺激的な批評である。表現者と批評者は芸術の両輪であり、かつてピーター・ブルックが指摘したように、批評の刺激に晒されない表現行為は退廃していく。ひよっとすれば、その両輪をとともに欠いてい

8月のFriday Amusement Negative Shop

■8月4日(第652回)

【タベリ場 crossing cafe file.28】

匿名掲示板風に語れ！目先を変えてみるか？

案内人：安達良香

■8月11日(第653回)

【タベリ場 crossing cafe file.29】

匿名掲示板風に語れ！それならイケるか

案内人：安達良香

■8月18日(第654回)

【タベリ場 crossing cafe file.30】

県立美術館演劇公演経過報告～んで、vol.2～

案内人：田中勉

■8月25日(第655回)

【タベリ場 crossing cafe file.31】

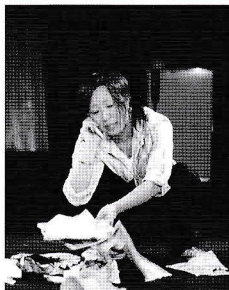
県立美術館演劇公演経過報告～んで、vol.3～

案内人：田中勉

※特別番組以外全て午後7時30分～、料金/一般500円 高校生以下100円 ※料金改定しました！ 高校生以下は、特別番組以外100円でご覧になります。チケットはスペースベンにて販売。スペースベンの上演内容は、ホームページまたはメールマガジンでご確認下さい。

tsutomu.tanaka ☎070-5095-2028
スペースベンHPアドレス http://spaceben.com/
Eメールアドレス owner@spaceben.com

演劇空間 スペースベン
八戸市柏崎1-11-8
☎ 0178-43-9876
FAX 050-3588-8350



劇団be
「Twenty-one and Half」

ある八戸の演劇状況にあって、最早「演劇状況そのものが存在しない」とすら言えるのかもしれない。が、それでも二つの車輪を作り、回し続けようとするならば、小さな小さな情熱を絶やさずに、あるいは発掘し、作品を創り続ける他には無いのかもしれない。そして、スペースBENというコヤは、その最後の砦にして最初の足掛かりの場なのかもしれないと、鉄の扉を開け、階段を降りてあの小さなコヤに入るたびに思うのだ。今回の盛岡公演が、私達がスペースBEN以外に初めて手にした「足掛かり」となることを願いつつ。